

# 市長提案説明要旨

平成31年2月15日

平成31年第1回鹿嶋市議会定例会の開会にあたり、市政運営に関する所信の一端と、新年度の事業概要並びに提出いたしました議案の説明を申し上げます。

## 《はじめに》

総務省が発表した国内の人口移動の状況を示す「2018年住民基本台帳人口移動報告」によりますと、東京都を中心とした東京圏では、13万9,868人の転入超過となっており、前年より1万4,338人増え、一極集中が一段と進んでいる結果となりました。

茨城県においては、転出超過が前年に比べて2,590人拡大し、7,744人と都道府県の中で最も多くなっています。

本市は、転入者が2,366人、転出者が2,336人と、30人の転入超過となっていますが、総人口は、社会増が自然減をカバーしきれなくなった2016年から減少局面に入っており、2018年は前年より165人減となっています。

こうした中、国においては、少子・超高齢化、人口減少社会に立ち向かっていくため、一億総活躍社会の実現を目指し、働き方改革や教育無償化などによる子育て支援の拡充などに取り組むとともに、東京から地方への移住、起業・就業支援などによる地方創生などに重点的に取り組んでいくとしています。

本市においても、いきいき茨城ゆめ国体や東京2020オリンピックの開催、魅力的な地域資源などを最大限に生かしながら、若年層の移住・定住や子育て、教育、地域経済、情報発信など様々な施策を動員し、選ばれる都市を目指してまいります。

## 《新年度予算》

次に、本議会に提案いたしました平成31年度一般会計予算について、ご説明いたします。

平成31年度一般会計予算の編成に当たりましては、第三次鹿嶋市総合計画をはじめとする各種計画の着実な推進、計画の最終年度にあたる鹿嶋市まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げる基本目標の達成、鹿嶋市公共施設等総合管理計画に基づく計画的な施設管理の推進、「いきいき茨城ゆめ国体」及び「東京2020オリンピック・パラリンピック」の成功に向けた取り組みなどを推進することといたしました。

こうした基本的考え方のもとに編成いたしました平成31年度一般会計予算は、前年度比0.3%増の234億5,600万円となりました。

また、7つの特別会計の予算額367億2,785万3千円と3つの公営企業会計の予算額51億6,592万8千円を合わせ、総額といたしましては、前年度比1%減の418億9,378万1千円となりました。

### (スポーツでつながるまちづくり)

スポーツは、市民の健康づくりや青少年の健全育成、地域コミュニティの活性化、国際理解の促進、地域経済の振興など、様々な場面において大きな役割が期待されます。

国体及びオリンピックの開催、Jリーグ屈指の鹿島アントラーズの存在など、こうした貴重な大会やスポーツ資源を最大限に生かし、スポーツの持つ多面的な価値を高めてまいります。

いきいき茨城ゆめ国体については、今年9月29日から10月3日まで、カシマスタジアムやト伝の郷運動公園多目的球技場など5会場で、少年と成年の男子サッカー競技が行われます。

昨年のリハーサル大会で好評をいただきました市内中学生で結成したプロジェクトチームによるおもてなし活動やPRなどの取り組みを継続して行うとともに、競技団体や学校関係者、ボランティアなど多くの方々と十分連携を図り、選手をはじめ参加された全ての人の心に残る素晴らしい大会となるよう、取り組んでまいります。

オリンピック開催に向けた取り組みについては、国内外から訪れる多くの皆様が安全・安心な環境で試合を観戦できるよう、大会組織委員会や茨城県と連携し開催準備を進めてまいります。また、鹿嶋らしい温かなおもてなしとともに、観光や歴史、文化など本市の持つ様々な魅力を発信してまいります。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会鹿嶋市推進協議会を中心に、様々なイベントなどを通じた機運醸成や市ボランティアの募集・運営などを推進するとともに、世界各国への情報発信の拠点となるメディアセンターなどとして活用が見込まれるカシマスポーツセンターの空調設備などの大規模改修を進めてまいります。

ネットボールアジアユース大会が6月29日から7月7日まで、カシマスポーツセンターで開催されます。また、5月31日から6月3日まで「関東高等学校サッカー大会」が開催されます。

スポーツや観光など関連団体との連携を図りながら、国内外の様々なスポーツ大会の誘致など、スポーツコンベンションを推進してまいります。

大野区域で進めています温水プールについては、一般公募により「いきいきゆ

めプール」と名称が決定し、今年4月のオープンとなります。学校プール及び市民プールとして、子どもから高齢者まで多くの市民がスポーツを楽しみ、健康づくりに取り組めるよう、各種プログラムの充実を図ってまいります。

我らが鹿島アントラーズは、20冠となる悲願のアジアチャンピオンのタイトルを獲得し、市民に感動と活気を与えるとともに、国内外に「サッカーのまち かしま」を強烈にアピールしていただきました。

1月19日に鹿島神宮周辺において開催いたしました優勝パレードと優勝報告会には約1万2千人が詰めかけ、アントラーズに対する熱い想いと新シーズンの全冠制覇への期待を感じたところであります。

市民の皆様には、カシマサッカースタジアムに足を運んでいただき、大きな声援をお願いいたします。

### (未来を創るひとづくり・まちづくり)

若い世代などの結婚や子育てへの希望を実現し、将来の鹿嶋を担う子どもたちの健やかな成長のために、「子育てするなら鹿嶋市で」をスローガンに、「結婚、妊娠、出産、子育て、教育」に係る切れ目のない支援を推進してまいります。

「鹿嶋市子ども・子育て支援計画」の第1期計画が平成31年度で終了となるため、新年度において、社会情勢の変化や子育てに関するニーズ調査、事業評価などを踏まえ、次期計画の策定を進めてまいります。

子育てに係る経済的支援を図り、少子化対策に結び付けていくため、平成27年度から実施してまいりました子宝手当支給事業については、支給額に対する課税問題もありましたが、第3子以降の児童数は増加が見られ、一定の成果があったものと考えております。

国は消費税率の引き上げによる増収分を活用し、幼児教育無償化など子育て世代、子どもたちへの大胆な政策資源の投入を打ち出しており、こうした子育て支援の拡充は、子宝手当支給事業の目的の解決につながることから、支給額などの見直しを行うとともに、その財源を活用し、子育て支援の拡充を図ってまいります。

昨年4月に開設しました「子育て世代包括支援センター(りぼん)」においては、妊産婦や子育て家庭の相談、支援などで多くの方にご利用いただいております。

新たに、産婦健康診査並びに産後ケア事業に係る費用の助成を開始するなど、妊産婦の心身の健康を守り、健やかな子どもの育ちをサポートしてまいります。

また、感染力が高く、重症化や重い後遺症を引き起こす恐れのある「おたふくかぜ」の予防接種費用に対する助成を開始するとともに、小学生以下の小児イン

フルエンザの予防接種費用の助成回数を1回から2回へと拡大を図ります。

待機児童ゼロに向けて、私立の教育・保育施設の整備に対する助成を行い、受入児童数の拡大を図るとともに、私立の教育・保育施設における年度中途に入所する乳幼児のための保育士確保に係る経費に対する助成制度を創設し、保育士の確保に努めてまいります。

子どもたちが安全・安心して快適に学べる教育環境の充実としまして、施設の老朽化対策や空調設備の整備などを計画的に推進するとともに、英語教育の充実など、ハード、ソフト両面での向上を図ってまいります。

熱中症対策として進めてまいりましたエアコンの整備については、新年度に、大野中学校など中学校4校を整備し、これで全ての公立の幼稚園、小学校、中学校でのエアコン整備が完了します。

また、平成29年度から進めてまいりました公立の小中学校における机と椅子の更新についても、新年度で完了します。

国の英語教育においては、全国学力学習状況調査での「読む・聞く・書く・話す」の英語4技能試験の導入や小学校5・6年生での英語教科化など、大きな変革期を迎えています。

市では、英語教育特区として小学校1年生からの英語教育や保育園・幼稚園・認定こども園へのALT（外国語指導助手）の派遣、英語専科教員の配置、小学校5、6年生での英語教科化の先行実施など、英語教育の充実に努めてまいりました。

毎年11月に公立中学校3年生全員を対象に実施している「英検I B A」英語能力判定テスト結果では、今年度は、英検3級取得者レベル相当の割合が前年度と比べ1.2ポイント増の51.1%となり、こうした結果からも各種施策が英語力の向上につながっていると考えております。

今後も教育の成果と課題を踏まえつつ、コミュニケーション力の向上に向けた授業改善など、総合的な英語教育の充実を図ってまいります。

トップアスリートを夢先生とし、公立小中学校に派遣する「オリンピック・パラリンピック教育推進事業」については、今年度、全ての公立中学校で実施しました。新年度においては、全ての公立小学校において実施します。

子どもたちのオリンピック・パラリンピックへの関心を高めるだけでなく、夢や希望を持つことの大切さや障がいに対する理解の促進などにつなげてまいります。

本市とNHKとの共催により、全国放送公開番組「民謡魂 ふるさとの唄」の開催が決定しました。今年11月10日、鹿嶋勤労文化会館において、公開収録

が行われますが、伝統的な民謡に加え、ふるさとの唄や郷土芸能などの地域の文化が鹿嶋から全国に発信されます。

### （地域資源を生かしたまちづくり）

本市は、「歴史のまち」「スポーツのまち」「工業のまち」という全国的な知名度と優位なイメージを有し、さらに、豊かな自然と、米やキャベツ、鹿島灘はまぐりなど多様な農水産物などにも恵まれています。

こうした本市の優位性をブラッシュアップするとともに、国体やオリンピックという絶好の機会を生かし、国内外に積極的に情報発信し、更なる魅力づくりを進めてまいります。

昨年1月に、鹿行5市と（株）鹿島アントラーズFCをはじめとする民間企業と立ち上げました「一般社団法人アントラーズホームタウンDMO」については、海外からのサッカー合宿を中心に、延べ2,000泊を超える需要を創出するなど、順調なスタートが切れました。

来月24日には、鹿行5市の初の連携事業となる「茨城100Kウルトラマラソンin鹿行（ROKKO）」が開催されます。参加者募集600人に対し750人の応募があるなど予想以上の反響があり、今後の事業展開が期待されます。

貴重な地域資源を有機的に結び付け、観光ニーズを的確にとらえたメニューを揃えることによって、長期滞在や回遊性の向上を図ってまいります。

宮中地区賑わい創出事業については、オリンピック開催に向けて、鹿島神宮駅前広場リニューアル事業などを行うとともに、魅力的な商業地の再生及び鹿島神宮を訪れる人々などを惹きつける魅力ある観光を目指し、関係団体や地元事業者、地元住民とともに、中心市街地活性化基本計画の策定を進めてまいります。

また、地域のまちづくりの先導役となる「まちづくり会社」の支援を通じて、空き店舗対策やイベントの開催など、賑わいづくりを創出してまいります。

鹿島港は、今年、開港50周年を迎えますが、鹿島港の整備と利活用の促進が地域経済に与える重要性を踏まえつつ、さらに安全で使いやすい港となるよう港湾施設の整備促進と外港公共埠頭の利活用について、関係機関に強く働きかけてまいります。

### （市民と共に創るまち）

それぞれの地域により、課題や魅力は様々です。公民館などを拠点とした地域コミュニティの活性化を図り、地域主体のまちづくり活動を支援してまいります。

また、市民・事業者・行政などの多様な主体が情報を共有し、知恵を出し合い、地域の課題解決や魅力あるまちを目指し、市民の皆様との共創によるまちづくり

を進めてまいります。

今月3日に、大野まちづくりセンターにおいて、「第16回鹿嶋市まちづくり市民大会」を開催いたしました。日頃から地域づくり活動に貢献された個人・団体の表彰と、「未来に生かそう！市民がつくるオリンピックレガシー」をテーマに、講演とパネルディスカッションが行われました。

参加された約380名の市民の皆様には、オリンピックを生かしたまちづくりや市民参加の意義及び価値について考える機会になったことと思います。

共創のまちづくりを進めるうえで市民との情報共有は不可欠であり、様々な媒体の特徴を生かしながら、市政情報などの積極的な発信と分かりやすい広報活動に取り組んでまいります。

新年度中に、市のホームページの全面リニューアルを行い、高齢者や障がい者を含む誰もが支障なく利用できるアクセシビリティの向上も図ってまいります。

男女共同参画社会の推進には、市民一人ひとりが身近な問題として関心を持ち、考えていくことが重要です。女性の多様なライフスタイルを応援する女子フェスタやフォーラムの開催、情報紙の発行などを通じて、学習機会の提供や意識啓発などを図ってまいります。

### （住んで安心のまちづくり）

地域福祉の推進については、今年度にスタートしました「第3期鹿嶋市地域福祉計画」に基づき、市民や事業者、NPO、ボランティア、行政といった多様な主体が有機的に連携し、地域ぐるみで支え合う体制の構築を推進してまいります。

障がい者福祉の充実については、障がいを持つ全ての方が地域で安心して暮らせるよう、自立支援給付や相談支援、就労支援など、きめ細かなサービスの展開を図るとともに、計画的に提供できる体制の構築に取り組んでまいります。

高齢者福祉の充実については、高齢者が住み慣れた地域で自立した生活ができるよう、2025年問題などを見据えた「第7期はつらつ長寿プラン」に基づき、介護給付などの対象サービス提供体制の確保と地域支援事業の計画的な実施に取り組むとともに、地域包括ケアシステムが機能する地域づくりを推進してまいります。

地域医療・救急医療対策については、関係医療機関に対する財政支援を通じて、不足する診療科医師の確保や休日・夜間の救急診療体制などの維持・充実を図ってまいります。また、三次救急患者の受入れについては、引き続き土浦協同病院

や千葉県旭中央病院などに協力要請を行ってまいります。

この4月30日をもって幕を閉じます「平成」は、東日本大震災をはじめ、各地で地震や台風などによる大規模な災害に見舞われ、多くの犠牲を払って教訓を学んだ時代でもありました。

消防団員のレベルアップや消防車両・機材などの整備を進め、消防団を中核とした地域防災力を強化するとともに、各地区での防災訓練の開催などを通じて、市民一人ひとりの防災意識の高揚を図ってまいります。

防犯活動の強化については、国体やオリンピック時の安全・安心の確保を含め、防犯灯や防犯カメラの整備を進めるとともに、自警団や事業者などとの連携の中で、地域ぐるみの防犯活動を推進してまいります。

なお、防犯灯については、地球温暖化対策や電気料金などの維持管理費の軽減を目的に、リース方式を活用し、今年1月1日現在5,696基の公設防犯灯は、全てLED式防犯灯に更新いたしました。

消費者行政については、悪質商法や振り込め詐欺の手口の巧妙化、電子商取引の普及などにより、消費相談は増加傾向にあります。

市では、消費生活センターを設置し、こうした市民の相談に迅速かつ適切な対応に努めておりますが、引き続き、消費相談体制はもとより、未然防止に向けた啓発活動など消費者行政の充実・強化に取り組み、安全で豊かな消費生活を送ることができる社会の実現を目指してまいります。

空家対策については、昨年4月に「鹿嶋市空家バンク制度」を立ち上げ、これまでに15件の相談が寄せられ4件が登録し、うち2件は新たな所有者による活用が進んでおります。引き続き、制度の周知を図り、空家などの流通と活用を促進してまいります。

高規格幹線道路をはじめ市内の主要幹線道路は、地域経済の活性化や災害発生における緊急輸送などを支える根幹的なインフラです。

東関東自動車道水戸線における「鉾田～潮来」間の整備促進と鹿嶋市への延伸、さらに、新神宮橋を含む一般国道51号鹿嶋バイパスの4車線化の早期実現について、国や関係機関に対し積極的に要望活動を行ってまいります。

都市計画道路宮中佐田線については、旧国道124号から国道124号バイパスまでの延長約540mの区間の2020年度開通を目指し、茨城県に対し全面的に協力しながら事業の進捗を図っております。さらに、その先線についても、早期事業化に向け協議調整を進めているところです。

幹線道路の整備については、市道0151号線（武井）、0155号線（角折・棚木）、0105号線（平井）の3路線を通学路交通安全プログラムとして整備を進めております。

市道0155号線については、今年度で交差点改良工事が完了したことから、他の2路線についても早急に整備を進め、地区住民や子どもたちの安全な歩行空間を確保してまいります。

雨水排水対策については、多くの皆様からご要望をいただいておりますが、事業の緊急性や必要性の観点から優先度に応じて、効率的かつ計画的に整備してまいります。また、長年の課題でありました荒野台駅周辺地区については、全国で2例目となる雨水公共下水道事業として、2022年度の完成を目指し整備を進めてまいります。

公共交通対策については、鹿嶋コミュニティバスや広域路線バスの運行に加え、昨年7月からデマンド型乗合タクシーの運行を開始するなど充実を図ってまいりました。引き続き、市民や利用者の意見、運行実績などを踏まえ、交通事業者、市民、行政などで構成する「鹿嶋市地域公共交通活性化協議会」において検証をいただきながら、市民の利便性の確保と持続可能な交通体系の構築に向けて、改善を図ってまいります。

#### （自立した信頼のあるまち）

地方自治体は、少子高齢化や高度情報化など社会経済情勢の大きな変化に直面し、厳しい財政状況においても、多様な行政ニーズへの対応が求められています。

本市においては、財源の確保に努めるとともに、行財政改革や情報化の推進、職員の能力向上、機能的かつ効率的な組織体制を構築し、より一層の市民サービスの充実に努めてまいります。

ふるさと納税については、国において過度な返礼品を規制する法制化に向けた手続きが進められているところですが、引き続き、市内の事業者と連携を図りながら、返礼品のラインアップを強化し、鹿嶋の魅力を全国の方々に実感していただくとともに、歳入の確保につなげてまいります。

効率的な組織運営については、新年度から、幼稚園、保育園、認定こども園の教育委員会への一元化を図り、より一層の円滑な幼保小の連携や教育・保育の質の向上を図ってまいります。

また、市職員の能力開発に向けて、民間で活躍する人材との交流を図るなど、民間と連携した研修などを進めてまいります。



## 《提出議案等》

次に、提出いたしました議案について説明いたします。

提出議案は、予算関係議案が20件、条例関係議案が12件、諮問関係議案が1件、合わせて33件であります。

まず、予算関係議案は、一般会計、特別会計及び公営企業会計に係る、平成31年度当初予算が11件、平成30年度補正予算が9件であります。

平成31年度当初予算は、先程ご説明申し上げましたとおりであります。

平成30年度一般会計補正予算は、東日本大震災復興基金（国土交通省分）返還金や自立支援給付事業、介護保険特別会計繰出金の増などを計上しております。

次に、条例関係議案は、新たに制定するものが2件、改正するものが10件であります。

新たに制定する条例は、鹿嶋市職員の自己啓発等休業に関する条例などであり、改正する条例は、鹿嶋市長の選挙におけるビラの作成の公費負担に関する条例の一部を改正する条例などであります。

諮問関係議案は、人権擁護委員候補者の推薦についてであります。

私の説明は以上で終わりますが、予算以外の議案については、担当の総務部長から補足説明をさせていただきます。

お手元の議案書によりご審議のうえ、適切な議決を賜りますようお願いいたします。